

令和4年度 秋の公開

保健体育科学習指導案

指導者 東信教育事務所 指導主事 胡桃澤輝彦 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 岩田 靖 先生
日 時 令和4年9月30日(金)
授業学級 3年B組(41名)
授業会場 体育館
単元名 「空間を作り出せ! ゴール型」
授業者 渡部 颯治

I 本校全体の研究の概要

- 1 令和4年度 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」 保体1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え 保体1
- 3 令和4年度 研究の全体構想 保体2

II 保健体育科の研究

- 1 保健体育科の研究テーマ 保体3
- 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め 保体3
- 3 研究内容 保体3

III 単元の指導計画

- 1 単元名・学年 保体4
- 2 単元の見どころ 保体4
- 3 単元の評価規準 保体4
- 4 保健体育科として、全校研究テーマに迫るための仮説 保体4
- 5 単元に寄せた教材化 保体5
- 6 単元展開 保体6
- 7 資料 保体8

信州大学教育学部附属長野中学校 保健体育科

研究者 渡部 颯治 尾臺 美彰
渡邊 南都 青木 孝文

I 本校全体の研究の概要

1 令和4年度「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）

2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を迫るものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

3 令和4年度 研究の全体構想

(1) 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

(2) 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

(3) 研究の重点

<p>重点1 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする 単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。</p>
<p>重点2 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。 ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。 ③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。</p>

(4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養うための学習の在り方
総合的な学習の時間	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

II 保健体育科の研究

1 保健体育科の研究テーマ

運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方

2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め

「ボレーを狙え！ネット型」（令和3年9月・2年）では、空いた場所をめぐる攻防を展開する学習を構想した。そこでは、ダブルバウンド・テニスにおいて、「意思決定」、「ボール操作」、「ボールを持たないときの動き」を視点に、前衛後衛の連携した動きを考えてゲームを行うことを繰り返す展開を位置付けた。

S生は、前衛の際、前衛後方の空いた場所を守るために、相手後衛からのストレートへの返球（図1①）に備えることはできていたが、クロスへの返球（図1②）に対してボレーにいけずにいた。S生は、相手コート状況を見返しながらチームで話し合い、相手後衛が前衛側から返球するときは、アウトになりやすいストレートへ返球（図1③）が来にくいいため、ネット際の中央へボレーを狙いにいけばよいことに気付いた。そして、後衛は、相手後衛をコート中央や前衛後方に動かすような返球（図1④）をすること、前衛は、相手後衛の位置を見て、ボレーを狙いに行くことを確認した。その後のゲームでS生は、相手のコート状況に応じて、前衛後方の空いた場所へのストレートを守ったり、相手の後衛の前などの空いた場所に、ボレーを返球したりした。このようなS生の姿は、「体育の見方・考え方」を働かせ、空いた場所をめぐる攻防を展開することができた姿であり、運動についての課題を合理的に解決する力を高めた姿と捉える。



図1

このようにS生の姿は、「体育の見方・考え方」を働かせ、空いた場所をめぐる攻防を展開することができた姿であり、運動についての課題を合理的に解決する力を高めた姿と捉える。

単元の終末、1年次に学習したネット型のアタック・プレルボールと関連付けながら本単元の学習内容を振り返る活動を位置付けた。S生は、「ネット型は、『ボール操作』は違っても、相手の動きや位置を見て『意思決定』することや、空いた場所をつくらないように定位置に戻るなどの『ボールを持たないときの動き』は共通していて、これらの共通することを活用することで、他のネット型も上手くできると思う。」と振り返った。このようなS生の姿は、ネット型に共通する知識を運動の実践と関わらせて実感することができた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿であると捉える。

このような学習を積み重ねていくことで、保健体育科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

3 研究内容

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育科編第1章総説の改訂の趣旨及び要点には、体育分野の知識について、「動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることが必要」とある。本校保健体育科では、体育理論における「運動やスポーツの学び方」に関わる知識を、運動の実践及び生涯スポーツにつながる大切な汎用的な知識であると捉え、各運動領域の学習の中で、動きの獲得や技能の向上を通して、運動の課題を合理的に解決する学び方があることを実感できるようにしたいと考える。

そこで、球技領域では、「意思決定」、「ボール操作」、「ボールを持たないときの動き」を視点（本学習指導案では「三つの視点」と示す）に、運動を観察したり分析したりしながら、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。このような学習を3年間継続したり、全ての運動領域で積み重ねたりすることで、それぞれの運動の課題を合理的に解決する学び方があることを実感しながら、運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高めることができると考える。

Ⅲ 単元の指導計画

1 単元名・学年 「空間を作り出せ！ゴール型」・3年

2 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【E (1) ア】

ゴール型について、技術の名称や行い方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等【E (2)】

攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等【E (3)】

球技に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話合いに貢献しようとしたり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 技術や戦術、作戦には名称があり、それらを ① 身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ② 技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 技 味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ① ② パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 ③ ゴール前に空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。	思 合理的な動きと自己 ① や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ② 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	態 球技の学習に自主的に ① 取り組もうとするとともに、作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。

4 保健体育科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 研究の重点1に関わる仮説

- ・「アシスト・バスケットボール」において、「三つの視点」で、攻撃や守備の連携した動きについて考えてゲームを行い、ゲーム記録を基に振り返ることを繰り返す展開を位置付ける。このようにすることで「体育の見方・考え方」を働かせ、ゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。(単元)
- ・チームの作戦や戦術について「何を見て、どう動くのか。」を「三つの視点」で整理し、チームで練習する活動を位置付ける。このようにすることで、目指す連携した動きと自己や仲間の連携した動きを比較して、成果や改善すべきポイントを仲間に伝えることができる。(本時)

(2) 研究の重点2に関わる仮説

- ・単元の終末、これまで学習した球技と関連付けながら課題解決をしてきた過程における共通点を振り返り、球技や他の運動に役立ちそうなことを考える場を位置付ける。このようにすることで、球技では、「三つの視点」で運動を観察したり、作戦を考えたりすることが大切であることを理解し、運動を楽しむための関わり方につなげて考えていくことができる。

5 単元に寄せた教材化

(1) アシスト・バスケットボールにおいて、「三つの視点」で、攻撃や守備の連携した動きについて考えてゲームを行い、ゲーム記録を基に振り返ることを繰り返す展開を位置付ける

本単元では、自己やチームの課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫していくために、「アシスト・バスケットボール」(保体8 7「資料」①)を行う。そこでは、攻撃側の人数が多く、4対2で攻撃側が数的有利なため、意図的な攻撃がしやすい。また、アシスターのパスからの得点が有利なため、戦術的課題が明確になり、そのための意思決定が易しくなると考える。さらに、ゲーム記録(保体8 7「資料」②)を用いることで、生徒は、ゲーム記録と運動観察で得られた情報等から自己やチームの課題を発見し、解決方法を考えられる。(以下、攻撃について中心に述べ、守備については、それらの攻撃への対応策が付随していると捉える。)

第1時、試しのゲームを行う中で、生徒は紹介映像のように仲間とパスをつなぎながら点を取ることが難しいと感じ、得点するためには仲間との連携が大切であると考えよう。そこで、教師は、単元の学習問題「ゴール前にパスをつないでシュートをするためには、どのように連携すればよいのだろうか。」を設定する。単元の前半は、アシスターを活用したい、ゴール前からフリーでシュートをしたい、といった生徒の意識から、それらに必要な連携した動きなどを共通課題として取り上げ、全体で追究する。その中で、自己やチームの課題を、仲間と共有しながら、ゲーム記録と運動観察によって得られた情報を基に、「三つの視点」で、連携した動きについて考えていく。生徒は、課題の解決方法を考える過程で、練習の仕方を工夫していくだろう。そして、練習やゲームを繰り返す中で、基本となるフォーメーションや動き方の約束事を決めたり、チームの特徴に合わせてメンバーを考えたりしていくだろう。そこで、単元の後半は、チームの特徴に合った作戦や戦術を考えながら、自己のチームの課題を解決する場を設定する。生徒たちは「三つの視点」で、自己やチームの連携を分析することで、チームの課題を見だし、練習の仕方を工夫していくだろう。

第7時(本時)、教師は、それぞれのチームが前時に考えた作戦や戦術について、「何を見て、どう動くのか。」を「三つの視点」で整理する場を設ける。生徒は自己や仲間の、動き出すタイミングや動き方など目指す動きを理解して練習や試合を行っていくだろう。このようにすることで、ゴール前にパスをつなげてシュートをするためのチームの作戦や戦術について、目指す連携した動きと自己や仲間の連携した動きを比較して、成果や改善すべきポイントを仲間に伝えることができるだろう。

以上のような展開を位置付けることで、生徒は「体育の見方・考え方」を働かせ、ゴール前への侵入などから攻防を展開することができるだろう。

(2) 単元の終末、これまで学習した球技と関連付けながら課題解決をしてきた過程における共通点を振り返り、球技や他の運動に役立ちそうなことを考える場を位置付ける

教師は、単元の終末、これまでに学習したネット型、ゴール型、ベースボール型の球技と関連付けながら、課題解決の過程における共通点を振り返るように促す。生徒は、「型が違っても、『三つの視点』で動きを分析し、連携を考えていくことが共通している。また、どの球技でもチームの特徴に合わせて作戦を考えることが大切だと思った。」など球技領域に共通した視点や学び方に気付くだろう。さらに「サッカーなどを見る時には、ボールを中心に見ていたけれど、ボールを持っていない人が何を見てどう判断しているのかも見てみたい。また、前評判が弱いチームが勝つことがあるけれど、きっとそこには何かしらの作戦があったのだと思う。」などと、「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方にもつなげていくだろう。

6 単元展開 ゴール前への侵入などから攻防を展開する学習

全 12 時間扱い 本時は第 7 時

段階	◆学習 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	<p>◆ゲームの紹介映像を視聴し、目指すプレイヤールールを理解し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技領域の既習内容を確認する。 「アシスト・バスケットボール」の紹介映像を視聴し、ゲームについて確認する。 試しのゲームを行う。 イヤウのような反応から、単元の学習問題「ゴール前にパスをつないでシュートをするためには、どのように連携すればよいのだろうか。」を設定する。 	<p>ア 2年次のゴール型「スライドボール・サッカー」では、仲間と連携してシュートを打つために、「意思決定」、「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」について考え、仲間との連携について考えてきた。これから行うゴール型でも参考になる知識や技能がありそうだ。</p> <p>イ 紹介映像のように仲間と連携してゴール前からシュートを打つ攻撃ができなかった。どうすればいいのだろうか。</p> <p>ウ アシスターを使えばゴール前で点がたくさん取れそうだから、アシスターからゴール前へパスを出したい。</p> <p>エ シュートを入れるのは難しいから、リングに当たると得点になるアシスターからのパスをシュートにつなげたい。</p> <p>オ アシスターまで、確実にパスをつなぐためには、どのような連携をすればよいのだろうか。</p>	● 態 ①（観察・ワークシート）	1
	展開	<p>◆自己や仲間の課題について、互いの考えを伝え合い、空いた場所を作り出して攻撃をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> アシスターにパスをつなげるための連携した動きを考え、全体で共有する。 ゲーム記録を基に、自己やチームの課題を話し合う。 	<p>カ パスをもらうために、ゴールから離れるように、広がる動きをして、誰もいない空間へ動いてパスを受けよう。</p> <p>キ パスをする人は、相手の位置を見て、マークされていない味方に、味方が操作しやすいパスを出せるように「ボール操作」を意識しよう。</p> <p>ク 仲間と連携しながらパスをつないでアシスターにボールをつなげることができるようになってきた。しかし、アシスターがボールを持った時に、みんながゴール前に集まってしまう。ゴール前に人が集まるとシュートやパスができない。どうすればよいのだろうか。</p>	○ 知 ①②（ワークシート） ○ 思 ②（ワークシート・観察） ○ 技 ①（観察）
<ul style="list-style-type: none"> ゴール前でフリーでシュートを打つためにゴール前に空間を作り出す連携した動きを考え、全体で共有する。 		<p>ケ ゴール前でパスがもらえなかったら、一旦ゴールから離れる動きをすればよさそう。そうすれば相手もゴール前から離れるから、ゴール前に空間ができそう。そこへ別の味方が走り込もう。</p> <p>コ アシスターからパスを受けたら、まずシュートを打つ「意思決定」をしよう。打てない時は、フリーの味方にパスをしよう。フリーの味方が見つからないときは、慌てずに一旦ボールをキープして落ち着こう。</p> <p>サ アシスターにパスが入ったら、フリーの人がゴール前に走り込めばよさそう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ゲーム記録を基に、自己やチームの課題を話し合う。 		<p>シ ゴール前に作った空間に走り込んでシュートが打てるようになってきた。ゲーム記録を見ると、シュートの確率が低い。シュートをするときの体勢が悪いのが原因かもしれない。どんな体勢でパスを受けるとシュートが打ち易くなるのだろうか。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> シュートを打ちやすい体の向きでアシスターからパスをもらうための連携した動きを考え、全体で共有する。 ゲーム記録を基に、自己やチームの課題を話し合う。 		<p>ス パスを受けるときは、ボールとゴールが同時に見えるような体の向きで受けるとシュートが打ちやすそう。</p> <p>セ ゴール前の空間に走り込んでパスをもらう時は、アシスターと向かい合うような体勢でもらうようにしたい。そのために、パスを受けたい位置を考えながら走り込もう。</p> <p>ソ 得点をたくさん取るためには、アシスターからの正確なパスが重要になってくる。アシスターを誰が担当するとよいのかチームで考えていきたい。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> アシスターの役割を考え、チーム内でアシスター役を決める。 ゲーム記録を基に、自己やチームの課題を話し合う。 		<p>タ アシスターは、味方からのパスを受け、ゴール前にラストパスを正確に出せる「ボール操作」ができることが重要だ。</p> <p>チ アシスターは、パスを受けたら、シュートが打てそうな味方を見つけ、その味方にパスを出す「意思決定」を素早く行える人が適している。</p> <p>ツ 私は、ゴール前からのシュートが入るから、ゴール前の空間に飛び込んでアシスターからパスをもらおう。</p> <p>テ シュートが上手な人がゴールから離れたところでプレイすることで、ゴール前に空間を作りやすくなりそう。</p>		

<p>◆チームの特徴に合った作戦や戦術を考えながら、自己やチームの課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ツやテのような反応から、チームの特徴に合った連携をして得点をたくさんとる方法を考える場を設ける。 ゲーム記録を基に、自己やチームの課題を話し合う。 	<p>ト シュートが上手な人は、ゴールから離れた場所からでもシュートを狙っていこう。そうすると相手がマークに来るからゴール前に空間ができる。その空間を使ってシュートを打とう。</p> <p>ナ ゲーム記録を見ると、遠くからのシュートが増えた。相手も遠くからのシュートを警戒して、ゴール前から離れることが多かった。その瞬間に、私がシュートを打てる位置に走り込めるとゴール前でフリーでシュートが打てそうだ。</p>	<p>○態 ② (ワークシート・観察)</p>	
<p>本時のねらい：チームの作戦や戦術について、目指す連携と自己や仲間の連携を比較して、成果や改善すべきポイントを仲間に伝える。</p>			6
<ul style="list-style-type: none"> チームの作戦や戦術を確認し、「何を見て」「どう動くのか」を「三つの視点」で整理する場を設ける。 学習課題「何を見てどう動くのかを確認しながらチームで練習や試合をしよう。」を据え、チームごと作戦や戦術に合った練習をするよう促す。 ゲームを行い、チームごとの作戦や戦術を考えながら動くよう促す。 ゲーム記録を基に、チームで振り返りをする場を設け、チームごと作戦や戦術について、本時の成果や次時に改善していくことを話し合う。 	<p>ニ シュートの上手な人が、ゴールから離れたところからシュートを狙うことによって、相手もゴールから離れて守る。そうすれば、他の二人がゴール前の空間に走り込みやすくなる。相手の位置を見て、空間に走り込もう。</p> <p>ヌ 相手の位置を見て、自分がマークされていたら、ゴールから離れる動きをして、相手を引きつけよう。</p> <p>ネ 仲間の動きを見て、みんなが同じタイミングでゴール前に入らないようにしましょう。</p> <p>ノ ゴール前の空間が空いているのを見て、自分がシュートを打ちたい場所に走り込んで、ラストパスをもらおう。</p> <p>ハ シュートの「意思決定」がしやすいように、パスをもらった人がフリーだったら、みんなで「シュート！」と声を掛けよう。</p> <p>ヒ みんなの動きが止まってしまうことがあったら、見ている人が「広がって！」など動きの指示を出そう。</p> <p>フ ゲーム記録を見ると、シュートの上手な人を活用することで、ゴール前に空間を作り出すことができ、前回よりゴール前からのシュートが多くなった。ゴール前の空間に走り込む「ボールを持たないときの動き」がよくなってきた。</p> <p>ヘ シュートの得点が低い。シュートの「意思決定」が遅く、マークされてしまうことが原因だと思う。アシスターにボールが入ってから動くのではなくて、アシスターにボールが入りそうな時から動き出すことができればもっとフリーでシュートが打てるのではないだろうか。「意思決定」を早くすることが今後の課題だ。</p>	<p>○思 ① (ワークシート・観察)</p> <p>10分</p> <p>10分</p> <p>20分</p> <p>10分</p>	6 ～ 11(本時は第7時)
<ul style="list-style-type: none"> 「三つの視点」で、攻撃や守備の連携した動きについて考えてゲームを行い、ゲーム記録を基に振り返る。 	<p>ホ ボールを持っている人を見るとアシスターにパスを出そうとする動作が分かる。その時に、ゴール前の空間を作るような動きをしたり、ゴール前に空間があったら早めに走り込む動きをしたりできれば、もっとフリーでシュートが打てそうだ。</p> <p>マ チームの特徴を考えながら仲間と連携して動くことで、意図的に空間を作り出せるようになってきた。それによって、得点がたくさんとれるようになった。</p>	<p>(ワークシート・観察)</p> <p>○技 ② ○思 ③ ○態 ②</p>	
<p>◆これまで学習した球技と関連付けながら課題解決をしてきた過程における共通点を振り返り、球技や他の運動に役立ちそうなことを考える</p>			
<ul style="list-style-type: none"> これまで学習した球技と関連付けながら課題解決をしてきた過程における共通点を振り返り、球技や他の運動に役立ちそうなことを考える場を設ける。 	<p>ミ 「アシスト・バスケットボール」は、仲間と連携しながら、シュートを打ちたいところに空間を作り出すことで、得点を取りやすくなった。これは、他のゴール型とも共通している。</p> <p>ム 「三つの視点」で自分たちの連携した動きを分析することで目指す連携した動きに近付けることができた。型が違う球技でも「三つの視点」で連携した動きを考えていきたい。</p> <p>メ サッカーなどを見る時には、ボールを中心に見ていたけれど、ボールを持っていない人が何を見ていつ動き出しているのかも見てみたい。また、前評判が弱いチームが勝つことがあるけれど、きっとそこには何かしらの作戦があったのだと思う。</p>	<p>総合的な評価</p>	12

7 資料

①アシスト・バスケットボールの行い方

■チーム

1 チーム 10～11 人で編成する。ゲームを行う際はチームを 5 人ずつ 2 つに分け、それぞれ攻撃チーム（下の図で▲）と守備チーム（下の図で△）に分かれて行う。

■コート

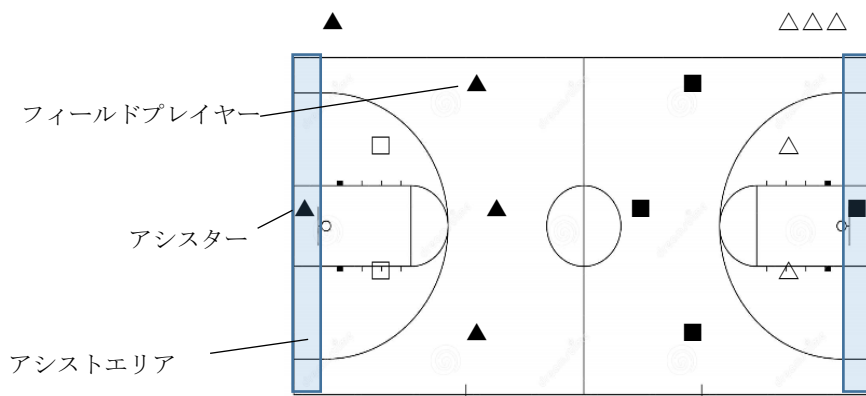
バスケットボールのコート。

■ボール

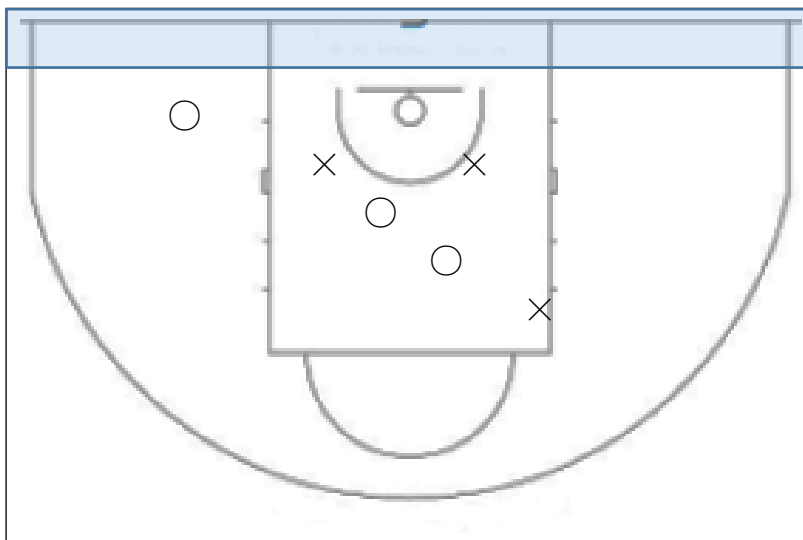
バレーボール。

■ルール

- ・ドリブルはなし。パスのみでボールを運ぶ。
- ・アシスターはアシストエリアのみ動くことができ、シュートはできない。
- ・アシスターのパスからの得点は、入れば 2 点、リングに当たれば 1 点とする。アシスター以外のパスからの得点は、入れば 1 点とする。
- ・攻撃は 3 人 + アシスター 1 人、守備は 2 人のアウトナンバーで行う。
- ・ハーフコートゲームで攻守分離とする。
- ・攻撃はセンターサークルから始め、リングにボールが入った時、ディフェンスがボールを奪った時、コート外へボールが出た時に、反対ハーフコートの相手チームの攻撃が始まる。
- ・クォーター制とし、▲△チームは第 1・第 3 クォーターで攻撃し、第 2・第 4 クォーターで守備をする。■□チームはその逆となる。



②ゲーム記録用紙と記入の仕方



- ・アシスターを活用できているかが分かるように、アシスターからパスを受けてシュートしたときのみシュート場所を記録する。
- ・フリーでシュートが打てていたら○を、マークにつかれていたら×を記録する。